



^ 5
5692
1



玄のるは命に丸ほ土へ土と土らまひぬまるを
 爆たか丸く重た共れる一ねなから赤じ丸

新版

改正

本草綱目

5692
1

月...の...
 漢...の...



い 57209

序

晴侯氏の書

花人の成を...
 あ...の...
 中...と...
 反...
 あ...
 の...

⑤	下の句ふとあ	⑤	はくともり	⑤
⑥	えゆともり	⑥	こそておん	⑥
⑦	えのこすまへ	⑦	を祿字はまろ	⑦
⑧	治定しとる字	⑧	まらん	⑧
⑨	治定のり	⑨	かよひ又地又	⑨
⑩	八字は付所	⑩	一句云ふ成句	⑩
⑪	指令の汝法	⑪	同字別吟	⑪
⑫	句數并去嫌	⑫	神祇之詞	⑫
⑬	非神祇詞	⑬	尺教之詞	⑬
⑭	非尺教之詞	⑭	徳之詞	⑭

①	非徳詞	①	無常之詞	①
②	速懐之詞	②	非速懐詞	②
③	人倫之詞	③	非人倫詞	③
④	居所之詞	④	非居所詞	④
⑤	夜分之詞	⑤	非夜分詞	⑤
⑥	山類之詞	⑥	非山類詞	⑥
⑦	水邊之詞	⑦	非水邊詞	⑦
⑧	四季之詞	⑧	面句并裏順奉句	⑧
⑨	百韻并四句歌仙	⑨	臨席覚悟	⑨
⑩	執筆法様	⑩		⑩

○さうきうし 下二頁 ○あづみひ大槩 下二頁

漢和式

- ① 第唱句之事 二頁
- ② 二四不同之事 二頁
- ③ 四字一平之事 二丁
- ④ 避下三連之事 二丁
- ⑤ 平仄起之事 二丁
- ⑥ 漢和一座法式之事 二丁
- ⑦ 對句之事 五丁
- ⑧ 假名書之事 六丁
- ⑨ 連綿字之事 七丁
- ⑩ 二物之事 八丁
- ⑪ 三物之事 九丁
- ⑫ 底返之事 九丁
- ⑬ 朱引之事 十丁
- ⑭ 文字用の様事 十一丁
- ⑮ 家書文字之事 十一丁
- ⑯ 四季文字之事 十一丁

同下終

① 誹諧之事

真義抄云漢書詭諧者滑稽之謂也
 史記滑稽傳考物云滑稽者酒之謂也
 不窮竭若滑稽也吐酒也
 今案に滑稽は道なり
 五道あり
 一、事妙義とらざる
 二、言清はどしどし
 三、水みいひさす也或は狂云あり
 四、妙義とあらざる

此中又心子あ詞よあうとれらるど

八雲御抄云或説曰俳諧有様二俳諧三俳諧四滑
指五指様一詠一六謎字七空戯八鄙戯九狂言二狂云
或義俳諧六様も心もこもに狂を俳諧六体狂云心と云
俳諧六狂字のうまばらうこ之調態心ありて又空を外抱ます
可く狂云心滑指はりのりともある其心奥義被れど
謎字のまごころの心はくこ空戯二向又裁て空らくなれ也
鄙儀のやうき細きころで云きころを狂云俳よおる引やん
ころ狂云ころ説よあうを火と水とまけてまきるとを

② 俳諧六体

心弄説 みまふ人けらるる株のこもや秋の月。

詞弄説 乃く付よふ代より代やぢがり縄 可全

心利に 扇をまふ石素おあういさるとん 正芳

句利に けちあつまるけけとまきんく 利冬

心狂 小傾城ゆさてながらん年け暑 其角

詞狂 京法も花見お屋小ハ七云湯 こそ我

右六体引寄いづまも奥義おま目ええありん
詠言のうもは六体をいつる事かー我ら好うこま
ありて他をそーばりまらんと也

三 俳諧六義

風

八雲出抄は風はうへをこしを吹いたまは風はうへを吹いたまは

志はしめしめたる人は射して

先いそ梅を公乃をさあま

こをを

賦

八雲出抄賦はかうへをこしを吹いたまは風はうへを吹いたまは

梅の葉をまきりては空のさうけ

全

比

八雲出抄比はまきりては空のさうけはうへを吹いたまは

いそめりやんの物たるあまもり

栗吟

真

八雲出抄真はたれを吹いたまは風はうへを吹いたまは

八雲出抄
八雲出抄
八雲出抄
八雲出抄

雅

八雲出抄雅はうへをこしを吹いたまは風はうへを吹いたまは

盆のさうけ月はくぬき花盛

挙堂

頌

八雲出抄頌はうへをこしを吹いたまは風はうへを吹いたまは

まきりては空のさうけ

松吟

四 俳諧諸部發句

神祇

神もあつる春うま

朋水

釈教

煤よりてさへめては佛うれ

不卜

夜

等けや焼て待夜の蚊をうま

尼 芳樹

無常

うき事れおりのまろく秋の蟬

晚山

表傷

かく斗かふる波女やほしーのあう

礮水

辞世

我うとくも四十世は花の奉りも

和及

追善

よそを渡まんぢうそても菊こても

方山

懐旧

よりや美押こ子まもちばさう

依紫

述懐

花の山か力やあきて菊をよけ

軒柳

佳移

落葉花荷果報くく人の家居る

知足

名所

山吹やさうて 蛙、水の底

鬼貫

名物

かとうあやね紫吹抜るもる推し

尔云

餓別

ふみ何よ忘し事なきハあふぶふ

霰艇

擬行

みち多しぬあをのまや親志くす

暮四

法續

月花けくねや海ことよ 全 選

全

息繼

あらしひけ我もまひき秋れれ

全

契

かたれや年くれ竹乃すれは代

昔醉

難

龍ハ谷子ハ山名乃家ほと交す

正由

文字

破さしふ分も人乃力りの如

子春

古事

伊勢海老や秋のたきくはは玉

素吟

本気

吾を向れ下よとくし 杜、あ

成之

詩

子林乃きぬいままここニケ月

巨海

歌

いふきしちるり海さた乃がぼるいれ

長之

た

たをりしよりちりてこれかちたへの

離雲

世の中

世の中よ耳よそをたれ麻のこえ

常矩

世の中

世の中よ耳よそをたれ麻のこえ

鬼貫

煉ハもの、月夜鳥ハつとむりく

強弱

ゆく存よあむく楚どあうせふ

似空

小奇

郭ふまのやう流乃あ車

一幽

狂云

比良三上雲ゆりくせ海れ橋

かき

題

并此葉乃みされ安ーや雷れくれ

かく

仁心

きやうあれとてあなき虫乃しと

おふろ

朧

晴をゆて竿はさうや雪乃存

ら圭

秀白

何りるーかろうへりるれ菊ハ酒

正由

云

乃こまむいす雲ハ如れ乃百い

貞隆

た

か乃月綿ハ撫らる柔碗ハ糸

奉堂

見

乞家尾ハ一ハ巴や雪乃犬

鞭石

云

ゆくまれて中乃ひるる蓮ハ

おき

重羽

住者乃きまうく涼ハ三ハ月

鉄島

尤

驚う毒乃こえとふ毒真を

標了

心能澄

心ひかして物あやうき柳うら

戈丸

源非落

猫乃どきゆりびる貝や斤抄り

琴風

心能澄

回徳をうらやまかんれはゆらぎ

鷺助

寝る神

月影をら柳らたはるあまを

素堂

老る神

うたぬやえぬはれ様か

吾雪

切あす白

傘エが目糸を星は子向う

漢石

鑑

富士よそよと三月七日八日

信徳

感懐白

吾が男に秋風定し頼二

松蔭

思有白

妻乃あまをうくまよそいあ

日

ほくくさ
かまの白

破き葉の石蘭よ秋出次鱗

調柳

あまのあまのあまの

上童あまも粽乃ほぐさ

西吟

あまのあまのあまの

毒よほき様うらはる柳

竹亭

河乃縁よ

星は七夕牛よ蠅

常矩

火とさあまのあまの

地よほきほくあまのあまの

道柯

あまのあまのあまの

かろ籠りわてはる乃とん壺

如泉

あまのあまのあまの

三月月の柳あまのあまの

不角

あまのあまのあまの

毒乃ねびりあまのあまの

琴風

あまのあまのあまの

捕られ花のあまのあまの

行春

くまの成てし菊はくらくちてさか
味かくふくぬぐむとくく
鱒乃もて蓮さくし事あれ
蓮瓶乃せし中めくき葉
舟や事いふまどく嵐山
かき苦や徳舟槽とせ捨小舟
麦食し宿とて人どつう終ぶ
蓮池よ生れてきこれ蛙うれ
藤乃経とて人志こく流す

二水 知扇 目悦 助水 心成 榮水 荷号 言水 和及

ぬまくたぐし色は
三芳聖へ花はほくひてふもあ
あうくかひふふふ
妹乃若打や若さじと回ふら
多んくやき
花しき風や柳くもの志重

五俳諧三十体

幽玄侘 日よまのしみやまさく
行雲 天もむしえらるや雲けみは足
廻雪 明風れ相もやまよ月ひら
長高侘 峯乃雲すくしむもみ所へ
高山 名月や登乃人よまの景

作者不知 越人 梅盛 立圃 元兆 其角

遠白	月乃名を許りる事や天海丁	立物
濠洲	妹よとむ水すしほや後乃城	探叟
望休	世よりきて道踏ゆるやつづり	友九
物終	兼候ぬ母乃名世の海しきこ	明水
不心	是乃中を逢はと壁う浅きあ	心後
理世	妹乃乃成まらり入り人老良	松竹
狂民	山中や菊のちりり湯た白ひ	心城
至極	兼候もて篤行よけりき奉	晨風
麗本	ちるむや祝と乃を所帯れり人	暮四

存直	心さる風虫を飛りよ夜登り	一笑
花麗	ちる雲とらるるまき山あり	竹亭
松竹	口さるむらさき乃むれあ	常友
竹亭	里よりまき夕を松乃さうり	碧山
夏可	花日や赤よあつりれを刀くむ	玄来
素遠	唐湯乃まきむらりねむあて	心後
抜群	乞つくとらるむら乃山	貞室
写古	都丹よりあつりあまらる	来山
面自	たつとての雲まの糸れきさ	心後

下無	寫乃三足よ成て夕うか	ん圭
系曲	松崎や日がくの本有れりも	維舟
農木	よくとわん蒔花咲垣根り分	んを
尺様伴	むりにます懸るやういさう	心査
一第伴	富吉よ入目を夜蝶やまおれ月	真角
拉忍伴	何をこて皮岸乃入目人たりや	鬼貫
強ガ	本を伐て投かうやまの月	明水

三 詠諧大意

詠諧乃句とり余以志於くありやう今古乃儀云て地

つと用也一壯らち海のひびくがれあつりや
 うさ網あつり控ゆるごとくゆく燈上續字は俳諧
 又連詠两用の網とりたる或ハ几帳屏風詩云と
 一人詠連よとをう詠者方よと用也其、或ハ
 とりたるめを懸着あつり其句詠あつりばそらけり
 ありんか一詠よゆり歌う張る云無業ありや
 連の依例なくハ俳乃中ほりかゝる人一或ハたき
 心あつりあつりたつり水とびらんこれあつり
 うあ事一字詠云あつりひく人あつりきくも

五

五

あまのいづれも其の真のまゝなるかゝるのほ
ろひのむねをさすゝまゝのむねとてあはれむ
と連つ面くしりかゝるゝ網と能乃面く
出―ゝるの百韻と能の網とひ百韻と用ひ始と集
ゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝる
ゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝる
作例するは此の如しなりとて
甲面なるは竹田の里なるは

あまのいづれも其の真のまゝなるかゝるのほ
ろひのむねをさすゝまゝのむねとてあはれむ
と連つ面くしりかゝるゝ網と能乃面く
出―ゝるの百韻と能の網とひ百韻と用ひ始と集
ゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝる
ゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝる
作例するは此の如しなりとて
甲面なるは竹田の里なるは

たかくて是船は用事のみ又まのつて一其境をくくケカシ更ウツル
みだし亦能く有るがう其むれ心全連イロカチよなるのあり

まはるは是も志がさし小橋なり

是と足る志がし一橋はくつてつて連エラスナレタカウニスノクニヤウガウニトスラニニニキマよるそとて好家
人もつり是ハ非正道進正道此乃まぬ乃この今能乃イハレガ
乃はまのしゆも人志強アヒレ之んは結乃能イハレよなるのあり
乃はまのしゆも人志強之んは結乃能よなるのあり

④等類差別

るはまのしゆも人志強之んは結乃能よなるのあり

他よりてきまのしゆも人志強之んは結乃能よなるのあり
あうしんやちんしゆも人志強之んは結乃能よなるのあり
事ふあしゆも人志強之んは結乃能よなるのあり
い盤イハレのあしゆも人志強之んは結乃能よなるのあり
とて等類と乃づれとといふは道れせとく今つめん
あまのしゆも人志強之んは結乃能よなるのあり
くは半とゆはまのしゆも人志強之んは結乃能よなるのあり
若るまのしゆも人志強之んは結乃能よなるのあり
あつまやを食れ家をも乃そつた

乃うのく物と荒をれ鶴改死

又

虎は尾のまをりてしし

お毒やしはまやうの後ま

右は白ともはくふ等おと乃れくや梅花

ハ鶴改死かかひ荒をを食乃殺とてしり作

虎は毒取毒乃白とましくゆくれおさ

らうのくとし常くゆりぬさくおさ

作若れらうのれお所ともみさ只く

乃花れ人のれ母あさぬはとま白とよはく
所まらうれをれお一華とてか伝る次よお
のうく白を河あてらう

花心やううりてりて乃出所

縮まやまけりてりて

く終ハ初乃はあさるらうは地各別あり

らうの母等れかあうのみらうす不易其意而造

其詰謂之換骨はとるまやかまひゆん

みよのくもあうりて道う小巻のり

は門を躍し半とす山からり
こはるふ心かひし羽者別乃抱よと規模其意形
客之謂之棄胎はどの人れまらうくやゆらん

(五) ぬぬの切字

信徳 為是りのましくはれた林哉
翠堂 櫻の帯乃まはれぬ中ぞ
湖春 蝶うらりしはまきるおひさし
林下 ちんちんせむはきうららひとがー
一言 霜れもらやうとくみある人ぬら

かきま 夕くもが初カキ雷カキのあびり
信正 尺志りあるは代もめいさきうら
一鉄 てまうりけり海乃島を秋のくれ
言永 木のくは果の有けり海のとこ
桃雨 柱けりあ藤カキ麻カキされ乃のあつさ
系衣 きれくも東向し人月の暮
高政 都らん小桶カキと鉦カキ花カキの
周也 独乃る海はくく人カキ松カキあり
如琴 風志れおとくむきかひ星

カキ
カキ

り
 大乃れ水乃うへとあるるなり
 いさしものこまうみり不投の雲
 直在 直在 直在 直在 直在
 為のふ相乃葉のりいひとま
 本線 襖 雲 ちりまのいよ様
 冬 冬 冬 冬 冬
 羅毛 井 又 の 井 茶 ぬ け ぬ け ぬ け
 花のくもくもく人ぬくド七候り
 何ものくくくくくくくくくくくく
 東海 竹翁 又鉞 野水 桐葉 山 竹亭 荷翠 和之

ハ
 花有て大乃れくくくくくくくく
 けが碎くくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくく
 行女みくくくくくくくくくくく
 幾何者峰よけきぬりくくくくく
 世失て魚乃骨撰のくくくくくく
 唐乃昔ゆいゆゆゆゆゆゆゆゆ
 常規 松笛 七菱 軒柳 蓮蓬 方山 嵐君 西土 喜正

か	傾城此親みとが	か	他乃	驚	和及
い	はみ乃のりる	虫	た	る	月
中	葉乃西を根と	根	一	萬	南
哉	うら	聖	会		
や	福	葉	乃		
ら	く	人	乃		
を	これ	乃			
より	白	魚			
	骨	乃			

い	精	乃	乃	乃	乃
い	扇	乃	乃	乃	乃
い	森	乃	乃	乃	乃
い	接	乃	乃	乃	乃
い	行	乃	乃	乃	乃
い	葉	乃	乃	乃	乃
い	何	乃	乃	乃	乃

三

十五

あぢい
い
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

人かたはるるもてぬきりて
あつたてのりて人れは乃暮
ぬかたれ本係あつて秋乃あや
色きぬかたはるる初さる
かたはるりて石ゆきりて初さる
葉刈てぬかたはるる寸雲は嵐
あぢいよいつれはとて麦一穂
ほはゆが秋雲清水は乃ま
あぢいよはあふ考きるる乃母

海水
其角
尚白
清三
常牧
明水
玄賢
李吟
軒研

あぢい
い
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

あぢいよはあふ考きるる乃母
あぢいよはあふ考きるる乃母
あぢいよはあふ考きるる乃母
あぢいよはあふ考きるる乃母
あぢいよはあふ考きるる乃母
あぢいよはあふ考きるる乃母
あぢいよはあふ考きるる乃母
あぢいよはあふ考きるる乃母
あぢいよはあふ考きるる乃母
あぢいよはあふ考きるる乃母

芭蕉
竹伴
自陸
幸虎
山店
松豊
光雪
松木
松雪

や
 こゝにや 牡丹乃 甚かあつてさ
 こゝにや みどるも 賣けさくも
 水とてや 蝶も 雀もめづるごと
 花もれや およすく 人もかぬ人
 有客やとまりありきて 初は雨
 白雲乃 暮るのや 四月は 雨ど
 家へも ちうと やめく てる島
 乃てる 紫も 遠くも ちれや 柳の
 如生 軒掛 梵外 隨友 不及 其角 梅氏 文丸

下知

よ
 うはうとさるる 人たを 辨さる
 心ゆくを 炭竈は け 芳野 山
 妙人子に ころつと かなたの ぬけ
 常位と ぬるま しい 久 麻の ぬ
 ちうは ぼと さうり びたふ むし風
 けあて ぬお 多 花りり が 妙人 家
 うこに ちや ちや ちや ちや 仁王 門
 西ひあ ちや 廊下 を ぬけ ちや
 唐塔 乃 垂る ちや ぬけ ちや
 去来 竹翁 竹亭 彫堂 道柯 如泉 正時 我思 森林

此のあてりひびく一又ひうそ切字に用ひたる事あり
 俱者其いひう事とてはまぬぬもかぬぬたり仍豊テスヨ
 二字切 目と著ぬうやみよ乃き女七夕 風虎
 ほも一何笑もさく人ニツ 星 風山
 三字切 うぐみよ何乃まも何梅乃花 貞室
 六を由り一乃切字
 茄子キハキもさくも踏と花乃雪 玉雪
 藜ラよらへ福乃みゆると門の雲 一春
 ○上二切字有て下と哉留

煤やたくしゆでれん京乃きりぬ 梅洞
 備よ去後よ垂るる五文字をえを上二切字有ても哉とやまうと
 ○ろり留
 存多ひ茶屋もむさる人お成よかり 可全
 初秋とひりゆうそふ煙よ成よかり 来心
 傳よ去七文字以後をよと押とらひさりとさう寸控に文有べ
 ○三名切
 同母を善茶也中ふかろくまは初ハ 素堂
 三後切もろり

○大後り

うらまて。天竺系。等々。先
うらまて。等々。めとさる。也
虎海

○玄妙切

鴨こちぬハコチ傷や切れ人
林閣
初心の輩。是れ末輩。よハ切。ぬ。こ
初心の輩。是れ末輩。よハ切。ぬ。こ

○切字のて可有が別句

毛ハく。こ。う。り。花。中。芳。野。と。 眞室

余乃。草に。女。人。か。る。も。と。小。芥。菜。 和及
慚。た。れ。て。さ。う。ゆ。る。人。冬。乃。 蠅。 其。角

これ。は。白。の。切。字。分。別。の。事。之。切。便。く。初。心。を。て
ま。と。さ。る。事。一。西。ハ。切。し。寸

右。切。字。句。一。大。概。と。抄。が。ゆ。り。終。了。ハ。乃。知。史。宅
乃。通。ぎ。の。切。字。こ。と。く。く。志。す。一。が。し。一。南。海。乃
白。と。見。ゆ。く。ま。ま。一。き。れ。ぬ。字。ゆ。り

お。う。た。ぬ。る。の。お。り。成。分。を。お。り。の
これ。は。字。づ。ば。も。き。れ。ゆ。り。切。字。と。お。り

くろ人おわさきし、白と引ゆる

松が食りしめてくく極 づり

又おき乃二字ハ連続しとなすうみんしは
殊り、あ母乃娘よ人の用いあるをきみとて
白と引りて可定

⑦ 現在乃哉 うき哉

現在乃哉 爰白トリゆり代法其法を

うき哉 十四款代法ことし月れそてぬりま

これいづきもゆり、能士子まのたれと得を乃にゆり

⑧ 三ー

現在未來

あろー ぎー ちー 短ー けね現在

十ー べー けー みるー けね現在

此ゆりの現在未來こそいづきも切字

まー ちひー ありし ぎゆ けね現在

これハ切字よあらぬ

⑨ おりんぬ 不乃ぬ

半

たとを ちね半 ちね半 ちね半 ちね半
ちね半 ちね半 ちね半 ちね半 ちね半

右ぬ乃字下には乃字れうひて安ゆるハ半とて字

此の字は...
更級が月...
...
不孝...
...

右乃右...
...
①土...
...
...

も 何夏も道は行くさくらさうりふて
ゆめ 持て世よまのさうりぬ余りて
ま 都^ミ 愁とらふて不自中^ミて

此亦さうり

放生會跡よる舟なる教くして

信^シん^スい^ハぶ^ハ放生會^ニに^ハま^ニり^テし^テ
ま^ニり^テあ^らむ^ハ故^ノも^ハ中^ニに^ハま^ニり^テ
二所^カ抱^カく^ハ白^クと^りあり

矣^ハ植^キと^シ花^ノよ^ハる^ハ公^ノ命^ノか^らく

又^ハ生^ハわ^りし^ハば^らと^シて^ハ人^ノ命^ノも^ハあ^らむ^ハ事^ノな^らず^ニ
あ^らむ^ハと^シて^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハ
う^ちや^ハり^ハ虚^キ字^ナあ^らむ^ハは^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハ
て^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハ

① 引^キか^らぶ^ハ字^ト押^ス字

そ 魚^ノ名^ト何^レと^シて^ハ魚^ノ名^トて
あ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハ
よ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハ
あ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハあ^らむ^ハ

かたきんくしやまらし

⑤ ようごひの文字有して留は仕様

ねごらの中は何れもよくおれし
しづひれあきてしよとよもあうが
かたきんくしやまらし

くまよきんあひのむらむの枝をきく

くまよきんあひのむらむの枝をきく

くまよきんあひのむらむの枝をきく

かたきんくしやまらし

おとけー定ふあひの枝をきく

⑥ 下乃白ゆい

陰のひのあひの枝をきく

中よひのあひの枝をきく

此二のあひの字をきく

⑦ 下乃白ゆい

無ハ美ハ月ハあひの枝をきく

下乃白ゆい
用ひきくしやまらし

吉波留

まゝあつた屋と猫乃をすまは
らるは波へあがりともいふて多
下は乃波へあがりいひては
とすまゝあつても多なり
佛よあつひ証まゝに波へ
いひてまゝ下は乃波へ留まら
あつたつても留りゆ

毛乃留

毛葉乃あつた塔二をり
小棟繩糸と人共ゆり
門法乃あつたかづりせ
伏見れ焼場もあつた
まゝに虎門はあつた
細りあつた
暮かれ目り
送り火ひそのまてき

る 九を好後彼うり 中ふも

たうかやううもさ多ゆり又内あくてま
留る例もゆりまのううかかたかておひひ
やかじまーま也

①くをとりひていげせてぬえがれとあるこ

け せ せ せ せ
せううてなう袖とくをりあ
膝とくをけしん也膝耳のたかき
炭取くを 煙とくを
言は葉よ骨おぬをらんたお

へ 徳めれんしそ人をもうやま

れ 親乃ゆらうらうそ人たむあふ
筆ぬりくわる西月をやゆんれ

こ外およおのあうらあうあうもあう人たれ
まのそあひうううんともあひんまあこのれ

①おひひ乃と原よ糸た葉

十九 伽靴とめて侍とてあがくるよんそ

十八 塔風よ何道経る強乃まの

十六 ちれをのうそ月た貴奴

二二 二二

十五 帆にそへて重なるあひひきりしむ 九

⑩とぬ字

私云らんとうこらんあひあそかかを割ていふ
いづれくさういづれをめいづれは字あつて
とぬしむま

おど 物らこりなこおとし独りいん

をれ かしぬ後これをもかれ被りいん

いり 友やあひいりほごるるいん

いり 隣はせよいりり用ひあつていん

や みくらーとてや 白髪ぬくいん

おあらしくきかぶあふ及ん又らんをぬれぬ

白所していらトーとぬぬぬぬぬぬ

べんたきくいんあ五竹のてあそと皆らんはかり

あおぐー

⑪活定しとぬ字

ろ ちよびてこりしはあつて被りいん

を ぬ乃電強さこりしはあつていん

よ ぬのつる湯土よぬぬ乃美いん

し
し

し
し

こ 際シマ子シマはシマ也シマ 勢シマはシマくシマうシマてシマん

て 勢シマはシマくシマうシマてシマん

かシマんシマくシマうシマてシマん

白シマきシマにシマ子シマ細シマめシマ一シマはシマ傳シマよシマえシマ指シマ量シマはシマわシマくシマうシマてシマん

得シマくシマ一シマとシマこシマれシマはシマ也シマ

⑤ かしら

とあらん人おゆ人鞠とよあらん

ゆらうとふねざらんお乃おあらん

こよう一お乃おの自然乃真

⑥ 治定乃の

此のころは流しつりのきり

此のころは流しつりのきり

⑦ かしら

かしら又

かしら

地又

かしら

⑧ 八字付所

何人の能くをばなれど

ふらねてあをともあはれなるをくも得てはあ
ゆる人こそ事ありか

⑤ 下は白二五四三乃事

さよりの室交中老ほる人

みぢやる居處乃勝れぬとみて

くもはるの袂のきこことハ自分仕事に老ほる人
他人のしあはれや居處との勝たぬとくも思ふや
己の心ははるの世をみてくも近所の事くも思ふ

と下は遠二白二五四三乃事

⑥ 下は白二五四三乃事

あはれ〜あはれなれりゆか

み〜み〜母親の事

こわら二五白とてよりなるは是とくも志
ゆる

あ乃その候り〜こ〜

子にせられたりぬれ母親

あはれ〜あはれ〜あはれ〜

三十九

三十九

① 文字傳乃口傳

文字傳は口より傳へて書かざる傳ひなりと
てて之を口傳と云ふなりと傳へて之を
書きて之を文字傳と云ふなりと云ふは
文字傳は口より傳へて書かざる傳ひなりと
てて之を口傳と云ふなりと傳へて之を
書きて之を文字傳と云ふなりと云ふは

② 文字傳は口より傳へて書かざる傳ひなりと
てて之を口傳と云ふなりと傳へて之を
書きて之を文字傳と云ふなりと云ふは
文字傳は口より傳へて書かざる傳ひなりと
てて之を口傳と云ふなりと傳へて之を
書きて之を文字傳と云ふなりと云ふは

① 指令之抄法

一、おひ乃は法と云ふは連歌抄式名おひ乃は法と云ふは
引物所まゝに傳へて之を口傳と云ふなりと傳へて之を
書きて之を文字傳と云ふなりと云ふは
五乃品名へ一切と云ふ別と用抄を誦抄と云ふなりと
これ皆宗道此義乃は法と云ふは法と云ふは法と云ふは
法と云ふは法と云ふは法と云ふは法と云ふは法と云ふは
貞徳八連歌一症は四乃抄と云ふは五乃抄と云ふは六乃抄
と云ふは七乃抄と云ふは八乃抄と云ふは九乃抄と云ふは
十乃抄と云ふは十一乃抄と云ふは十二乃抄と云ふは
十三乃抄と云ふは十四乃抄と云ふは十五乃抄と云ふは
十六乃抄と云ふは十七乃抄と云ふは十八乃抄と云ふは
十九乃抄と云ふは二十乃抄と云ふは二十一乃抄と云ふは
二十二乃抄と云ふは二十三乃抄と云ふは二十四乃抄と云ふは
二十五乃抄と云ふは二十六乃抄と云ふは二十七乃抄と云ふは
二十八乃抄と云ふは二十九乃抄と云ふは三十乃抄と云ふは

蛸トコも日ヒも暮クも山ヤマも羨ウラヤミ今朝イマヒも今イマ皆カ是コ
 年トシ是ケ日ヒも今イマのノ字ジのノ句ク羨ウラヤミ日ヒ日ヒ陰カゲ
 昨キノ之ノ日ヒは不キリ嫌ハ月ツキはさミざれレとシらレとシ休ヤ
 生ナマのノたタらシひヒ戸ドは上ウ戸ド下ゲ戸ド天下テンカは下ゲ卒ソツ
 羨ウラヤミ泉イハ海ウミ月ツキ西ニ王シ母ハハは母ハハ百ヒャク合カ
 花ハナは百ヒャク字ジひヒ都トをヲぐグとシ大ダイ概カ是コ
 准ス下ゲ吟イン味ミをヲべベ

世の故并玄嫌

同季トウキのノ故コ 三ミのノりリ共トモはハはハぐ
 秋アキ 二ニのノこコてテはハはハせセす
 同季トウキのノ故コ 一イチのノりリ共トモはハはハぐ
 夏冬ナツフユ 一イチのノりリ共トモはハはハぐ
 秋アキ 二ニのノこコてテはハはハせセす

神祇カミキ 一イチのノりリ共トモはハはハぐ
 神祇カミキ 二ニのノこコてテはハはハせセす
 神祇カミキ 三ミのノりリ共トモはハはハぐ
 神祇カミキ 四シのノこコてテはハはハせセす

水色スイシキ 一イチのノりリ共トモはハはハぐ
 水色スイシキ 二ニのノこコてテはハはハせセす
 水色スイシキ 三ミのノりリ共トモはハはハぐ
 水色スイシキ 四シのノこコてテはハはハせセす

人偏ヒトヒナ 一イチのノりリ共トモはハはハぐ
 人偏ヒトヒナ 二ニのノこコてテはハはハせセす
 人偏ヒトヒナ 三ミのノりリ共トモはハはハぐ
 人偏ヒトヒナ 四シのノこコてテはハはハせセす

水色スイシキ 一イチのノりリ共トモはハはハぐ
 水色スイシキ 二ニのノこコてテはハはハせセす
 水色スイシキ 三ミのノりリ共トモはハはハぐ
 水色スイシキ 四シのノこコてテはハはハせセす

居所キョウ所 一イチのノりリ共トモはハはハぐ
 居所キョウ所 二ニのノこコてテはハはハせセす
 居所キョウ所 三ミのノりリ共トモはハはハぐ
 居所キョウ所 四シのノこコてテはハはハせセす

三万 旅

三万のり多ハ世に二万
てもお若旅の字に三

二万 生類

鳥ト虫ト魚ト鳥
中ノ字に二万のり多

二万 植物

本ノ草ト竹ト木ト
多ト物ト行ト竹ト木ト

二万 名所

二万のり多ハ世に二万

三万 辰分

三万のり多ハ世に二万

二万 隙物

二万のり多ハ世に二万
雨あかしく二万のり多

二万 溪平物

二万のり多ハ世に二万
但霧降地際身あま

三万

生類

鳥ト虫ト魚ト鳥
ト鳥ト虫ト魚ト鳥ト

三万 植物

本ノ草ト竹ト木ト
多ト物ト行ト竹ト木ト

三万 衣類

二万のり多ハ世に二万
白神神三万を

二万 園名

二万のり多ハ世に二万
名所ト五万のり多

二万 田分

二万のり多ハ世に二万
夕附分約四万ハ陸中

二万 天象

二万のり多ハ世に二万
二万のり多ハ世に二万

神祇之詞

大掌會

新掌會

日蔭のり多ハ世に二万
大鳥衣 宮居竹乃多

法

荒社ノり多ハ世に二万
朱れりのり多ハ世に二万

丸木井

玉垣 葛のり多ハ世に二万
行乃多

祿殿

御供乃多ハ世に二万
市乃多ハ世に二万

長安

御師乃多ハ世に二万
御乃多ハ世に二万

御殺

夏神木 御流連

首座 卷至 典主 書記 行堂 僧正 僧都 法師

淨眼 淨橋 阿耨梨 持杖 頌字 坊友 法師 法師

禪門 入道 多心 新灸 比丘 比丘尼 尼 坊主

坊 大坊 六坊 里坊 僧 老僧 為僧 後僧 多僧 更僧 出家

沙門 業門 祇氏 沙弥 寺 律寺 持寺 奧寺 山寺 古寺

加藍 塔 屋塔 中塔 塔 峯塔 圓塔 九輪 彌藏 回廊 方丈

初僧 塔中 寺內 堂 後寺 多寺 古堂 及加 護 廣堂 祇臨堂

新後 厨 眠 菴 屋 行人 山 伏 臥 隨 輪 室 加 波 波

珠 數 百八 帽子 花 四 輪 拂子 仰 止 止 止

結 化 修行 導師 喝 食 鉢 扣 看 經 外 塔

五 論 素 絹 十 德 以 襟 緣 懸 金 剛 杖 杖 喚 鐘

危 鐘 鏡 鉢 鱗 木 魚 瑠 璃 經 帷 子 鉢 鉢 鉢

談 義 法 論 義 座 禪 灌 頂 施 我 忍 布 施

功 德 因 果 地 獄 流 轉 三 皮 十 界 常 燈 燈 火

新松 ニハシラ 新松 ニハシラ 新松 ニハシラ

傾城 ケイセイ 傾城 ケイセイ 傾城 ケイセイ

野良 ノラ 野良 ノラ 野良 ノラ

念者 ネンシャ 念者 ネンシャ 念者 ネンシャ

密言 ヒツゴン 密言 ヒツゴン 密言 ヒツゴン

私言 シゴン 私言 シゴン 私言 シゴン

密言 ヒツゴン 密言 ヒツゴン 密言 ヒツゴン

私言 シゴン 私言 シゴン 私言 シゴン

密言 ヒツゴン 密言 ヒツゴン 密言 ヒツゴン

私言 シゴン 私言 シゴン 私言 シゴン

密言 ヒツゴン 密言 ヒツゴン 密言 ヒツゴン

私言 シゴン 私言 シゴン 私言 シゴン

密言 ヒツゴン 密言 ヒツゴン 密言 ヒツゴン

私言 シゴン 私言 シゴン 私言 シゴン

新松

三十六

後家 賤女 市女 下女 棧女

世 無常之詞 表傷

塹丁山 乃乃一野 多道其の煙 人煙場 母をきつ煙

死出乃山 死者のまゝ 乃乃山 三途川 死人 命

棺 乃乃酒 乃乃送り 灰とせ 墓 墓系 塹

中陰 四十九代 餅 魂 結ひ 人魂 力落 枕 食

肢切 自害 白骨 冥途 黄泉 喪

骸樓 幽冥 始 終 終世

世 連懐之詞 并 懐回

洗青 洗青 洗青 洗青 洗青 洗青 洗青 洗青 洗青 洗青

老 老 老 老 老 老 老 老 老 老

後家 命 命 命 命 命 命 命 命 命 命

鏡 鏡 鏡 鏡 鏡 鏡 鏡 鏡 鏡 鏡

眉 眉 眉 眉 眉 眉 眉 眉 眉 眉

上 三十九

古家フルイ其日也ソノヒニキ措切スリキリ不仕令フシス 継子ミコ 寡ヤモメ 乞食コシキ
世推人ヨステヒト 後世トセイ 借債ヤクセ 借据借状借据借状 年忌トシキ 月忌ツキキ 遠忌トシキ

④ 非困懐綱

約翁ツヨウ 炭賣翁スエウリ 賤翁シカニ 賤愚シカニ 耐ノロカ 瘡サトウ
報身ゴゼ 病ヤミ 草乃庵クサノアト 柴の戸シノド

⑤ 人倫之詞

雲乃と人敵クモノトヒト 武士ムシ 侍兵シ 郎等ロウトウ 妻者メケ 使者シヤ

醫師イシ 佛師ブツシ 繪師エシ 袴ハカマ 拍ヒキ 師シ 儒者ニウシヤ
馬子ウマゴ 番バン 手テ 捕人ツカヒ 漁翁イサヒ 舟人フネヒト 桂女カツラメ 身ミ 我獨ワカドク
月ツキ 好ヨシ 日ヒ 亭主テイシュ 兄弟ケイテイ 姊妹シテイ 海士ウミシ 民タチ
賢女ケンメ 盜賊トウタク 海賊ウミタク 強盜カウダウ 祢宜ネキ 神カミ 若君ワカキミ

慈母 長下 長者 嫂 妻 親子 伯父 伯母
 祖父 祖母 姑 舅 娘 姪 孫 後 乳 兒 射 御 傳 母
 御師 能方 美仕 下 野良 傾城 白梅子 湯女 乃 公者
 屠兒 男女 友 逢 田 義 師 近 唱 食 同 宿
 新 奔 走 捕 士 橋 守 亦 長 舞 密 夫 酒 碎 筆 張
 待 和 孤 志 癖 の 國 插 牙 入 相 人 傳 の 聖 賢 名
 孔子 聖 賢 名 始 終 人 論 之 甚 多 公 論 之 人 論 之 公 論 之 公 論 之
 公 論 之 公 論 之 公 論 之 公 論 之 公 論 之 公 論 之 公 論 之 公 論 之

里 非人傳詞

東宮 皇女 門 跡 公 家 帝 官 親 王 女 院 本 院
 仙洞 新院 志子 大 君 人 間 道 心 傳 仙 人 長 也
 一 門 一 家 六 親 在 行 新 式 給 仕 典 某 下 乃 眷 屬
 祖 師 橋 娘 我 君 本 道 弁 科 二 人 若 乃 信 大 勢
 勢 攝 人 歎 聾 啞 盲 目 代 友 月 友 月 友
 乃 一 心 之 乃 碎 乃 也

同代同付ともあり
教に承りてく
款のころち

一族雅兵イノリ凡ホシブ丈シシヤ生カマハ行ウツクニイ湯ホ和カサ尚ホヒク之ヒ拾ヒ得ヒ私ヒ

某且那シシヤ地チ以ヒ坊ハ友ウツクニイ氏ホ友ホ名ホ如ホ来ホ苦ホ美ホ薩ホ祖ホ

師乃名此人傷也百姓頃シシヤ礼ヒ大ヒ

黒 居所之詞

家イ家イ飛イ宅イ門シ戸ト背セ戸ド窓ミ蔀ト格カ子シ障シ子シ

致チ致チ友チ他チ友チ相チ抱チ之チのチ樓ロウ樓ロウ上ロウ省シヤウ省シヤウのシヤウのシヤウと

屋ウチあまの
若カな
まうや
かりや

城シロ天テン守シュ亭テイ玄ゲン実ジツ屋ヤ形カタ路ロ地チ棟ムネ軒ケン一イチ階カイ棚タテ床ヤ

庵イハ里サト村ムラ天テン井シロ辰ツ間ミ身ミ世セ部ヘ座ザ廊ロウ下カ基キ所トコロ座ザ

壁カキ厨イ間ミ湯ユ敷シ納ナ戸ド屋ヤ根ネ柵カ下カ流リ地チ垣ケ隣トナリ藏クラ堀ヅ

火ヒ爐ロ坪ツツ内ウチ外ソト面オモテ簾サシ井イヅ筒ハシ走シ置ク暖ノ簾サシ番バン所トコロ

爰コノ居イ鴨カモ井イ田イ爐イ田イ煖イ裏イ礎イ簀イ子イ

黒 非居所詞

同上
四五二

寺台ト室ツキヤノダケ院ノ堂ノ皇居内裡塔伽藍ノ本堂ノ
眩眠ヤシロ花ノ庫ノ裏ニ柱ニ色ニ去リ寺堂ノ付ル名ノ籠ノ

置ニ 初メ之ノ訓

狭カ妻ノ宵ノ也ノ曙ノ曉ノ也ノ雲ノ乃レ月ノ之ノ
月乃入ル的方ノ有ル的残ノ暗ノ東ノ雲ノ雲ノ又レ是レ梓ノ双ノ綿ノ
後ニ氏ノ市ノ炬ノ灯ノ舞ノ桃ノ地ノ行ノ地ノ燭ノ臺ノ漢ノ火ノ

初メ火ノ埋ル火ノ亦レ火ノ上ル床ノ上ル火ノ也ノ
也ノ又レ夜ノ也ノびレびレ也ノ狐ノ照ル射ル蚊ノ火ノ越ル別ノのノ也ノ
龍ノ背ノ送ル乃レ歩ル乃レ也ノ乃レ也ノ乃レ也ノ乃レ也ノ乃レ也ノ
蝙蝠ノ螢ノ拾ル每ノ乃レ火ノ短ノ繁ノ送ル火ノ油ノ燄ノ
冲ノ突ル外ノ乃レ也ノ博ノ深ノ起ル衾ノ蔭ノ時ノ亦レ燭ノ
平ノ燭ノ每ノ乃レ也ノ枕ノ改ル胤ノ乃レ也ノ乃レ也ノ乃レ也ノ
川ノ規ノ將ル人ノ乃レ也ノ蒲ノ圍ノ於レ灯ノ源ノ乃レ也ノ乃レ也ノ乃レ也ノ

ねむる 天比川 星と唱 御名 衣く 網代床出
又 産女 化也 夜祭 过看

○ 此夜分納

法灯 殘高 及 弥永 之乃 曉 夕々々 夜燈火
苦欠 泊夜を侍月 夕月 夜御火 燈 常此 燈
床 山伏 一夜 酒 得 電 明 夕 山 子 的 果 ぬ ぬ ぬ ぬ
乃 入 泊 五 三 夕 月 出 朝 胡 々 戎 月 々 戎 殘 度

線の床 泊 狩 入 桐 多 切 夢 現

○ 山類之綱

山 嶽 岡 洞 沮 坂 谷 沖 尾 之 高 根 林 蔭 池 崎
柿 松 木 炭 竈 山 崎 山 地 浮 崎 小 垣 小 崎 松 崎
山 梨 丸 山 鳥 丸 山 河 之 堂
葛 城 九 折 知 々 山 世 々 々 山 之 邊

○ 此山新河

山 新 河 山 新 河 山 新 河 山 新 河

菱ヒシ 流水ナガシキ 氷魚ヒヲ 田升タイ 月出ゲイラ 堀ヲシニ 小堀コヰケ 伏漬カマイ 巻升カマイ

里サト 八延アノ 虫カニ 水イハレヒ 魚セニキ 火スヨシ 灣カミ 恒ミイ 吉テラ 井キヨミ 井テラ 寺キヨミ 法キヨミ 見テラ 寺

志シ 奴カ 井ノ 松ホ 大津オホツ 明石アカシ 栗津クリヅ 須广ス 松崎マツザキ 三崎ミヰ 岩橋イハハシ

梁ヤサ 敷シ 小コ 雞波津ニハツ 浦ウラ 赤アカ 八ヤチ 八ヤチ 溪カ 水ミヅ 俤ウデ

① 此の色通

雞波寺ニハツ 志奴シノ 住ヰ 吉キヨ 大井オホイ 栗津クリヅ 須广ス 天アマ 今イマ 三サン 橋ハシ 洞ツツ 川カハ

心ココロ 長ナガ 弓ユミ 三サン 乃ノ 美ミ 白シロ 河カハ の 雲クモ 月ツキ 乃ノ 水ミヅ

新ニホ 衣ウ 布フ 乃ノ 水ミヅ 室ムロ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ

苗代メウジ 谷屋ヤ 横川ヨカハ 小コ 田タ 材カ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ

菅スゲ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ

岩イハ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ

貝ガイ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ

神カミ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ

乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ 乃ノ 水ミヅ

其度は宗匠に随ひて用括ふまじひるべし珠輪^{コトニシテ}五^{イカ}
 てに終るれはるる芳流りくそは流まきび一^{十ニカウ}細^{細ニシテ}多^{コトシテ}
 かさ乃せくる書きしめさざらふまじくはそは格よ随^{カク}
 ては流めくは流たぐふるも宿るなきりいひぬ
 家にまんとまき禁けしをりよりまわさくはる
 のこのせゆるまありと

(季)四季の之洞

春

青陽^{ビヤウヤク}青帝^{サエテイ}陽春^{ヤウシュン}蒼天^{サウテン}東君^{トウキン} 詔光^{セウキョウ}

正月

と陽孟春 且至 ひとき 陽月 ひととみそめ月と卯月
 初陽大族 卯月 統月 初元月 ひとのま月と亥月
 正月の初陽のまにひつらぬはむつら月とものりしをを答へ
 てむ月とひとりのまに乃後十五日雨止乃節初初昏又斗柄
 寅乃故はらせり其故まこと乃月ともまの寅ハ要乃世の
 正月とて亥正のひとりの

元月

聖帝 兼且 改旦 ひとのま 初元月 ひとのま
 初元月 ひとのま ひとのま ひとのま
 ひとのま ひとのま ひとのま ひとのま
 ひとのま ひとのま ひとのま ひとのま
 ひとのま ひとのま ひとのま ひとのま

四方科

星と云ふは元正寅乃付と云ふは房星と云ふ

天竺四方乃心後と云ふは星と云ふは今在るの世俗

乃星は命星と云ふは七返作と云ふは後醍醐天皇の御代

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

付の佛

天竺四方乃心後と云ふは星と云ふは今在るの世俗

菌固

菌固と云ふは菌固と云ふは菌固と云ふ

椒拍酒

椒拍酒と云ふは椒拍酒と云ふは椒拍酒と云ふ

御薬を供

御薬を供と云ふは御薬を供と云ふは御薬を供と云ふ

元日

元日と云ふは元日と云ふは元日と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

節會と云ふは節會と云ふは節會と云ふ

ひらきだて... 蓮葉かご... ありさうみ

あつり... 押鉈... 年... 玉

秋の... 依子... 玉... 玉

庭... 破... 玉

庭... 玉

庭... 玉

庭... 玉

初... 初... 年... 玉

初... 初... 玉

初... 初... 玉

初... 初... 玉

初... 初... 玉

初... 初... 玉

初... 初... 玉

初

初

蓮葉かご... ありさうみ

押鉈... 年... 玉

依子... 玉... 玉

破... 玉

玉

玉

玉

年... 玉

玉

玉

玉

玉

玉

玉

初

初

方より人形... 灰と飛ぶ...
二三月に... 灰と飛ぶ... 二月廿一日...
 松竹... 改... 叙位...
二月廿一日...

春卸

名石寺天狗宴 二月廿二日
 竹田柳 柳田柳

二月廿二日... 二宮大炊食...
二月廿二日... 二宮大炊食...

朝親行幸 二月廿三日
二月廿三日...

二月廿四日... 白乃連款...
二月廿四日...

二月廿五日... 霞新之慶...
二月廿五日...

叙位
 二月廿六日
 二月廿七日
 二月廿八日

白馬節會 七日あとのまはせらぬ
七日正月 靈辰日

人日 人と帳又敷きて 七日人を多し
菜摘河神

事 箕尾富実 七日
真言院御修治宿直人

御齋 女叙位 八日
女王緑と嫁人

大元師 常陸等乃神奉 十日
鹿嶋乃

除月 十一日
外園の人とては友とあつて

帳内 十日
懸石乃

夷系 十日
帳内

御齋 論義 十日
おぼひ同者清原あり御齋

男端款 十四日
おぼひのり

三迷打 十四日
おぼひのり

御新 十五日
おぼひのり

花燈 十五日
唐子火

小豆張 十六日
おぼひのり

師子乃神奉 十六日
賭弓

厄神 十六日
おぼひのり

厄神 十六日
おぼひのり

厄神 十六日
おぼひのり

厄神 十六日
おぼひのり

厄神 十六日
おぼひのり

吉田清稜 十九日 具足如後

二十日正月 九日 煎餅と粥 十日

都波鴻

祭 下五日 内宴 十日 福来草 九日

外記乃改治 柳忌 九日 福来草 九日

節振舞 東風 丸 氷 氷

凍とく 魚水 五具 後

雪汁 残者

雨水乃節 柳魚と祭 水鳥轉

木乃月 下の元 莖立 鶯菜 水入菜

多草 野菊 菝菹

梅 根白草 茨子

野大根 梅 白毒 紅梅 赤梅

香菘 行幸梅 信流毒 柳 青柳 川柳

凡草 五柳 赤柳 白柳 岩柳

鳥 百千鳥

北

五

木地燧縁

佐保坊

乃ざの

暖

ぬめり

河還

飯室

まき

万去楽

春馬油

梅うえ

まき

子月衣

松乃花

みどり

みどり

十世り

霞

八重虎

虎乃衣

まき

白魚

白魚

予籠

青苔

葩魚

葩魚

山椒乃枝

野老

霞乃洞

まき

まき

二月

仲ま 夾後 物見月 小正月

中和節

二月 教の 執虫節

初午 初午

東福寺

水間寺初午

本妙寺

糸 初午 鉢生子

乃 募後 今 人 糸 乃 糸

釋奠

二月 上丁日 孔子 春日 糸

園井 韓神

糸 上五日 大原野 糸

祈年 糸

冒大 糸

祇園 御八講

八講 八講 列見

吉野 乃 餅

乃 餅

五十二

五十二

比良乃八講 萩の徳 二月堂の心

遺教經 九日 佛乃別 二月廿一日

源柱炬 十五日 真福寺考字 日 積塔 十六日

多此節 二月 臘月教 日 後の成乃日

治我耳酒 廿日 狂翁雨 日 象家

寺取勝會 十九日 淡間糸 九日 天王寺之聖

靈玄 廿二日 北野中 日 道明寺 日

季沖讀經 二日 灸 同出替 波岸 時時宗

躍念佛 波岸乃 踏哥乃 後宴 日

蛇穴と出系 花 鳩と成

鳥乃鳴 紙子 鳥志巢 鳥乃將由リ

蜂巢 蟻 蜂 蟻

雲雀 蜂 蟻

雲雀 蜂 蟻

蜂 蟻

蜂 蟻

の土

の土

三月

你生を又月比くら月まおと月まき云 善保
香云 中姑 古洗 満月 嘉月 新花

巳乃日杖々々 上巳と巳日水まうてらるる人て疾病を
乃そくワさうや今三月三日を用て巳日

次乃杖々々 巳日陰物味又おれまて杖志あう 曲水杖宴
不血とあ候めらう其 巳日陰物味又おれまて杖志あう

油花下 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三日 詔や風風を葉あくら水まうてらるる事めをを事

薬師寺の最勝會日 石清水院乃祭 中興乃日
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

杖杖々々 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

拾柳乃火とあ 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

石取 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

泉涌寺の心忌 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

安良の吉野云式 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

經會 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

比良祭 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

壬生念佛 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

紙園一切 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

九日 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

十日 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

十一日 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

十二日 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

十三日 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

十四日 三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ
三月 此れハ杖杖とて曲と杖奉水申ハひく一あ

翻カク學ガク會エ五イ 峯サカ大ダイ子シ日ヒ 子コ日ヒ 盛シメおウくク 淺アサ

車クルマ条ジョウ日ヒ 御ミコ身ミ拭ヒ 十九イウ日ヒ 御ミコ親ニ供ク日ヒ 稻イネ荷ネ乃ニ御ミコ

出デ中ナカ日ヒ乃ニ乃ニ 順スミ乃ニ奉ホウ入イ 大ダイ奉ホウ 田タ胤イン化カ 暎キ氣キ

總ソウ之シ穀コク雨ウ乃ニ節セツ 二月ニ月ゲツ 萍フキ生ナ初ハジメ 暖タシ氣キ

永エイ之シ日ヒ 生ナ之シ日ヒ 友トモ近チカ 友トモ之シ侍シ 暮ク之シ云クモ 中ナカ之シ云クモ

煙エン之シ寒サムイ 乃ニ乃ニ 郭ホト之シ郭ホト 乃ニ乃ニ 郭ホト之シ郭ホト 乃ニ乃ニ 郭ホト之シ郭ホト

鷹トウ乃ニ鼻ハナ 呼ヨコ小コ鳥トリ 雲クモ又マタ入イ鳥トリ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ

麥ムギ之シ鷄トリ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ

糶シ乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ

素ソ子コ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ

桃モモ林リン 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ

花ハナ乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ

花ハナ乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ

花ハナ乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ

花ハナ乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ

花ハナ乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ

花ハナ乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ 乃ニ乃ニ

花の波 花の鈴 花鳥 花乃えこ
花の波をばいひ 花の鈴 花鳥 花乃えこ
 花の海 花の雲 花衣 花車 花衣 花車 花衣
花の海をばいひ 花の雲 花衣 花車 花衣 花車 花衣
 花の都 花の聲 花の榮 花の軍
花の都 花の聲 花の榮 花の軍
 花の遊 花のぬ 花のゆ
花の遊 花のぬ 花のゆ

花守 利夷 鄭 幸夷 通茶乃 杏子 李乃 藤梅
花守 利夷 鄭 幸夷 通茶乃 杏子 李乃 藤梅
 小梅乃 赤菊 小茶乃 小茶乃 小茶乃
小梅乃 赤菊 小茶乃 小茶乃 小茶乃
 林橋乃 掃乃 拵乃 揚本
林橋乃 掃乃 拵乃 揚本
 東乃 金法 藤
東乃 金法 藤

止

止

夜ふ 夜の丸 莖 つふとま 芽 たぬく 枸杞 カニ 又木 ワニキ

母子 コノコ 新茶 ニヤ 新茶 カシ 新茶 カシ 新茶 カシ 新茶 カシ

东菊 ヒゲキク 吹ら ヒゲキク 拵 ヒゲキク 拵 ヒゲキク 拵 ヒゲキク

金鳳 キンポウ 華 ケ 他 ヒ 他 ヒ 下子 ゲコ

眉 メイ 他 ヒ 乃 ノ 死 シ 仙 セン 臺 ダイ 萩 ハギ 葛 クワ 檀 タン 替 カ

虎杖 コウサツ 三葉 サンエフ 芥 カイ 苧 ソ 宿 シュク 竹 チク 三月 サンゲツ 菜 サイ 二月 ニゲツ

大根 ダイコン 金錢 キンネン 花 ハナ 鷄 キ 乃 ノ 死 シ 乃 ノ 死 シ 乃 ノ 死 シ

長雨 チガユ 二月 ニゲツ 生 ナマ 山 ヤマ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ

表 ウラ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ

夏 未明 昊天

胃

卯月 卯月 卯月 卯月 卯月 卯月 卯月 卯月 卯月 卯月

更衣 一日 白重 衣 ウラ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ

之 ノ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ

山科 ヤマノキ 糸 イト 平野 ヘノ 糸 イト 松尾 マツオ 糸 イト 當 トウ 廣 ヒロ

糸 イト 大 ダイ 和 ワ 之 ノ 松 マツ 本 ホン 糸 イト 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ

乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ

乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ 乃 ノ 衣 イ

水屋脩 三日四日五日 廣瀬 三日 龍田祭 四日 山崎日使 五日

三月八日 願祭 一日 提階奏 三日 澄佛 八日 戒壇堂開帳 八日 山崎祭 八日

應馬入鳥屋 八日 多族祭 上旬 伊勢社衣祭 十四日 中山祭 十日 吉田祭 十日 安天神祭 十日

加茂乃祭 中酉御形あひまうり 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日 日向祭 十七日 菅宮 十七日

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

乃節 端午 菖蒲

乃節 端午 菖蒲

乃節 端午 菖蒲

乃節 端午 菖蒲

乃節 端午 菖蒲

乃節 端午 菖蒲

乃節 端午 菖蒲

乃節 端午 菖蒲

乃節 端午 菖蒲

乃節 端午 菖蒲

乃節 端午 菖蒲

乃節 端午 菖蒲

乃節 端午 菖蒲

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

五月 卯乃夜

小角弓の勢とくもて村
 あてく先と合掌しつり **桃甲符** 五日 **赤靈符** 目
 らとれるかごりねとぬい泉文の符とて屏風山帳扉
 りとよとて勢とせむるこまひとと桃甲とと
 たりつり 合て掃面すこ半あり **蘭湯** たりふ
象乃表 **泉乃つら** 百変にふり
能説方 たりふ おえと似て五月入る其吉れとありと
幾渡危車 **水馬** 五日川よわてふ乃色米かそ
騎射 五日 **危近乃ま** つひひ六日
是ひひむりぬ五日とあり 三日へんとなつてつひひ四の近の表と
表ひ入日とありとつひひ六日とありとつひひ七日とありと

君の庭よりめてきる終いぬいぬい
平地 **神水** 五月傳乃表とありとありの **加茂乃表**
イニギ 昔くくる **櫻乃表** 五日傳乃表とありとありの **勝乃**
とありぬい **社祭** 五月 **今宮祭** 十五日 **室乃神祭** 十二日 **両社祭** 北三日
有表 日 北五日 **寂勝講** 五月 **賑給** 五月
あてく先と合掌しつり **住吉の河田植** 日 **大原志** 日 **山田河田**
芒 終乃 **帝** 五月 **夏至** 五月 **雨** 五月

微雨 黃柳 五月廿中
 虎子洞雨 廿八日
 祇園は法雲洗日
 中夏生 富士堀 雞 蟬 乃初聲
 菅草と入 玄菟 乃
 藤州 和布 乃
 百合 乃
 菜 乃
 末摘花 乃
 花萬葉 乃
 石萬葉 乃
 萩乃花 乃
 菫乃花 乃
 萱 乃
 交菊 乃
 朝衣草 乃

後庭子 乃
 天菫 乃
 蚊帳糸 乃
 菖蒲 乃
 早凡 乃
 生胡桃 乃
 花板 乃
 扇 乃
 櫻 乃
 枇杷 乃
 楓の花 乃
 葵陽柳乃花 乃
 枇杷 乃
 美竹 乃
 青田 乃
 回廊 乃
 杏子 乃
 枇杷 乃
 子苗 乃
 回廊 乃
 天乃花 乃
 乃
 乃

上
 下

上
 下

粟アヲ 稗 拒胡戸ホシク
とくくハ 八月ハチノキ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ

蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ

蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ

蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ

蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ

蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ

蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ

蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ 蚊ハチ

津走 水ミツ 氷ヒヤ 氷ヒヤ 氷ヒヤ 氷ヒヤ 氷ヒヤ 氷ヒヤ

やき 昌清シヤウ 惟子カキ 單ヒト 花ハナ 花ハナ 花ハナ 花ハナ

六月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月

氷室 一日 二日 三日 四日 五日 六日 七日 八日

供 酒 酒 酒 酒 酒 酒 酒 酒

六月 會 日 神 紙 友 人 全 國

月 次 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

神 今 食 日 解 舟 の 淨 齋 日

キヲンエ 七日 月をこ 廿二
後園會 七日 月をこ 廿二
月をこ 廿二

部巨山 五家山 現く破山 ともて川てま しまきりて ち子山
山が山 白赤天 若列山 花盛人山 大神山 出戸山
りふ後まの 本社より 世系 糸極の 侍族 所すて 神楽を 出
まらる 同 十日 徳弁まを 運まの 經山 八まん山 くらん山
まらる 同 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

津島系 十日 舟まらり 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを
十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

いにく 飯系 十日 舟まらり 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを
十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

王系 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを
十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

志之食 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを
十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

志渡寺系 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを
十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

富士詣 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを
十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

大坂屋系 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを
十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

大坂屋系 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを
十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

大坂屋系 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを
十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

大坂屋系 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを
十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

大坂屋系 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを
十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

大坂屋系 十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを
十日 徳の行者 すすく 徳の 徳まを 出まを 出まを

茅^チの輪^{リン} 是年此大王様臣よ 夏^{ナツ}の^ウ まく

川^{カハ}社^{ヤシロ} 夏後小川をよみ 小^コ蠅^{ハエ}の^ハ神^{カミ} 場の

道^{ミチ}食^ケ系^{ケイ} 日四角曲東村 施^セ系^{ケイ} 東の

雷^{カミナリ}鳴^ネの^ハ隙^{マタ} 雷の 小^コ暑^{ヒツ}の^ハ節^{フシ} 六月 溼^{シツ}風^{フウ} 六月

多^タ雨^{アメ}の^ハ節^{フシ} 六月 大^{オホ}暑^{ヒツ}の^ハ節^{フシ} 六月 溼^{シツ}暑^{ヒツ} 六月

肉^{ニク}子^コ雀^{セウ} サウ ホネ あの^ハき^キ日^ヒ 夕^{ユフ}の^ハる

天^{テン}祝^{ケイ}節^{セツ} 六之^ノ伏^{フス} 分世の庚を中伏

日^ヒ傘^{カサ} いつと 泉^{イハ}水^{ミヅ} 泉^{イハ}殿^ノ 溼^{シツ}殿^ノ あの^ハ法^{ホウ} はの^ハり

新^{シン}井^イ 六月 水^{スイ}版^{バン} 麻^マ地^チ酒^{ジュ}

羽^ハの^ハ油^{アブ} あの^ハ油^{アブ} あの^ハ油^{アブ}

汗^{アセ}拭^{ヒキ} 汗 風^{カゼ} 薫^{カハル} 風

竹^{タケ}の^ハ節^{フシ} 竹 涼^{スズシ} 涼

唐^{カラ}傘^{カサ} 唐 傘^{カサ} 傘

日^ヒ傘^{カサ} 日 傘^{カサ} 傘

新^{シン}井^イ 新 井^イ 井

羽^ハの^ハ油^{アブ} 羽 の^ハ油^{アブ} 油

羽^ハの^ハ油^{アブ} 羽 の^ハ油^{アブ} 油

葛水 干飯 茗冷 七厘散 蘇合
梅 子桃 楊梅
李林檎 百日紅 梅子
蓮 蒲の穂
浮 竹乃皮取
茵 凌雲花
海草 虎尾の草 風蘭 狗脊草 銀

寶珠 麒麟草 寸干 青尼灯
赤草 麻 葛花 綿
乃布 香薰散 蒜乃根
南瓜 夕葵 瓜
尺豆 瓢箪 小角豆 ねり 雲雀
鷓鴣鷹 蟬
夏虫 蠅 蚊 蚋

六十八

燈火の夜 彦早は忌 乞巧天 乞巧の夜 乞巧針 乞巧の針

多又娘人七人の弁 七箇池 百鬼の池 芋乃紫 芋乃紫

七女共 握乃葉 握乃葉 本願寺門跡乃紫 本願寺門跡乃紫

七女共 七日御前供 七日御前供 本願寺門跡乃紫 本願寺門跡乃紫

赤系餅 赤系餅 飛鳥野家七夕乃鞠 飛鳥野家七夕乃鞠 送乃 送乃

山入 山入 文珠會 文珠會 六道衆 六道衆 核賞 核賞

お久隆 核賞 核賞 六道衆 六道衆 孟蘭盆 孟蘭盆

清水寺千日糸日 清水寺千日糸日 中元日 中元日 孟蘭盆 孟蘭盆

玉中 玉中 根草 根草 身玉 身玉 枕 枕

暮 暮 七月初之祖の墓 七月初之祖の墓 枕 枕 枕 枕

身玉 身玉 枕 枕 枕 枕 枕 枕 枕 枕

加多躍 加多躍 二軒 二軒 火 火 盆 盆

消 消 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆

新綿 新綿 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆

盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆

よるしりしくれ出まよそ人れヤ
懐安居乃既 十五日今八
解夏草 九月十日
水

うけ草 九月十日
地花糸 九月十日
相撲

糸 九月十日
徳成化 九月十日
乃心暑有さ

御冥糸乃出 九月十日
相撲 九月十日
乃心暑有さ

病 九月十日
乃心暑有さ
乃心暑有さ

秋風 九月十日
乃心暑有さ
乃心暑有さ

初嵐 九月十日
乃心暑有さ
乃心暑有さ

ひやうり 爽 扇置 本橙 草花

とらふ 女所花 羽敷 夕敷の

実 萩 萩のあしき 鹿右茶 萩敷

芭蕉 小車乃花 桔梗 大子草

萩 乃心暑有さ 萩の上風 ちや柳乃花

相撲草 仙羽花 公羽草

茶師草 萩切草 萩切草

十一

十一

五月 此の虫をく但みびりしは 養ふと心虫をいひ

五月 秋風少すハ父多しと云くと云ハ 養ふと心虫をいひ

五月 冬 虫のいしをいひ

五月 七月 鳥に糸 鳥に糸 鳥に糸

五月 幼鳥 鳥に糸 鳥に糸 鳥に糸

五月 冷麦 鳥に糸 鳥に糸 鳥に糸

五月 燒糸 鳥に糸 鳥に糸 鳥に糸

八月 白糸乃糸 天中乃糸 水村糸

水村糸 天中乃糸 水村糸 天中乃糸 水村糸

天中乃糸 水村糸 天中乃糸 水村糸 天中乃糸

水村糸 天中乃糸 水村糸 天中乃糸 水村糸

天中乃糸 水村糸 天中乃糸 水村糸 天中乃糸

水村糸 天中乃糸 水村糸 天中乃糸 水村糸

天中乃糸 水村糸 天中乃糸 水村糸 天中乃糸

水村糸 天中乃糸 水村糸 天中乃糸 水村糸

天中乃糸 水村糸 天中乃糸 水村糸 天中乃糸

水村糸 天中乃糸 水村糸 天中乃糸 水村糸

蛭 蜂 蝶 蛾 蚊 蜘蛛

胡蝶 蛾 蜘蛛 蚊 蜂 蝶

松虫 冷虫 蚕 蜂 蝶 蛾

松虫 冷虫 蚕 蜂 蝶 蛾

松虫 冷虫 蚕 蜂 蝶 蛾

松虫 冷虫 蚕 蜂 蝶 蛾

松虫 冷虫 蚕 蜂 蝶 蛾

松虫 冷虫 蚕 蜂 蝶 蛾

松虫 冷虫 蚕 蜂 蝶 蛾

松虫 冷虫 蚕 蜂 蝶 蛾

松虫 冷虫 蚕 蜂 蝶 蛾

松虫 冷虫 蚕 蜂 蝶 蛾

松虫 冷虫 蚕 蜂 蝶 蛾

松虫 冷虫 蚕 蜂 蝶 蛾

白紙に五帳 日 殺加矢糸 十日 けうさ石 十一日 系友此

紫雲と云ふ ちんどうの川 十五日 所野乃

律ハ懐糸 十五日 志賀六懐糸 出て浦糸 十日

宇佐宮糸 十五日 桐彦糸 日 月 二十日 乃弓 月代糸

月代糸 月代糸 月代糸 月代糸 月代糸 月代糸

孟のま 月代糸 月代糸 月代糸 月代糸 月代糸

十六夜月 月代糸 月代糸 月代糸 月代糸 月代糸

名月 月代糸 月代糸 月代糸 月代糸 月代糸

御霊糸 十八日 兼名糸 十八日

後皮岸 穴ハ 秋分糸 八月 天活杖乃糸

西院糸 八月 美薩糸 龍田糸 煉の糸

秋乃糸 中糸 芙蓉 本厚糸 漆乃

萩野 薄 東 宇治乃糸 蓮

萩野 薄 東 宇治乃糸 蓮

萩野 薄 東 宇治乃糸 蓮

萩野 薄 東 宇治乃糸 蓮

めりり物馬 ハムラサキ 花紫 ひらりたるのま 藍乃花 ア井 山のあけ

壇持 タシ 志 志の志の志の志 月草 月の草 葛 葛の根をみる

花壇 クク 野菊 ノキク 鳳仙花 ホウセンカ 鶏心 トリココロ 金剛草 コングウソウ

紅 ベニ 百夜草 ヒヨクサ 通草 ツウソウ 芙蓉花 フヨウ 鴨上戸 カモノウエ

毛 モ 牡丹 ホトトギス 根 ネ 牛房 ウシノボ

芋 イモ 薯蕷 ショウモ 堀 ホリ 菖蒲 ショウブ

茶 チャ 綿 ワタ 糸 イト 苧 ソウ 苧 ソウ 苧 ソウ

鷄 トリ 鴨 カモ 雁 ガン 小鳥 コトリ 渡 ワタリ 鳥 トリ

燕 ツバメ 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス

鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス

鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス

鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス

鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス

鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス

鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス

鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス

鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス

鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス 鴉 カラス

下多の祭 十日 例幣 十日 住
 吉本市 十三日 白河祭 十三日 後名月
 十三夜 栗名月 天更の祭 十四日 岩倉祭
 十九日 小倉祭 十五日 幼学舎 二月 栗田の祭
 一三祭 神田明神祭 度會新嘗
 十六日 恩波祭 山口祭 中巳午
 十八日 波女利女祭 高辻 辰服祭
 日付の必池田より 城南寺祭 九日 高辻 辰服祭
 九日 八幡祭 城南寺祭 九日 高辻 辰服祭

天王寺法縁灌填 九日 右妻祭 九日
 天満流馬 五日 本懐祭 九日 鹿島祭 九日
 送交祭 小山祭 六日 福五神祭 九日 昭徳
 桑 九日 津村 九日 野々宮乃別 九日 桂川の御
 定雨桐乃節 九月 荏蛤とある 桑ありせ
 菊 百葉 大向 碑楊地 才草 全目貫
 女流 残菊 十日 九月小袖
 菊重夜 紅葉衣 霜降乃節 九月

三十一

三十一

箴猷 カミケモ まの カミケモ 葉 ヒメダ と尺女まきありしちるうりちる

木菱 ボクヂル 柘 ハク 檀 タン 柎 フ 櫻紅葉 カクフモミキ 名 メイ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

實 ミ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ 柎 フ

七十七

つんばり 尾張りの名の草 元也之草 あり

わさきもかし 紙葉本乃花 老母草 ありの

菟豆 文豆 海乃ひく 葺特 松茸

赤葉乃去蕨 紅紫紺 小瀑江紺 叟の浦

尾越の鴨 網代打 夜打 袖江霜 露霜

赤田取 赤田 肌宅 板之き 乾之き

新酒 中々古酒

松島

漸き うそき 冷 世相踏鹿 熊栗

棚切 新造 衾以衣を伝て秋 秋涼

長さ取 暮煉 秋をて くれの梅 煉ちりゆらゆら

冬ちり貴 冬と中川 住吉神社 三十日

○冬 元英上天 玄帝 律檀 羽音

十月 妙子月 母衣月 幼衣月 小衣 幼衣 孟冬 陽月
又ゆりある中 孟冬の事としてゆきとや 神送

おりのりや 一日夜よ荆楚 進炉炭 煖爐會

有樓 一日夜よ都の法人 亥子乃餅 十月 立冬節 十月

冬立 五日 冬らき 五日 村場始 五日 残菊宴 五日

建平忌 十日 秋乃忌 十五日 金比羅祭 十五日

真福寺法花会 六日 維广会 十日 水官解厄 十月

御新講 十三日 下元日 十月 夷講 十月 大社社事 十月

東福寺元忌 十六日 神集 出雲 神乃留主 北 小宮節 北

十月 十日 法勝乃大業云 北四日 燧用 十月

火桶 イヤ 柴乃切 イヤ 袖風衣 イヤ 袖霜 イヤ

代河雨 イヤ 志中死 イヤ 柳 イヤ 冬木抄 イヤ

青世 イヤ 落葉 イヤ 木枯 イヤ

秋葉乃 イヤ 枯野乃 イヤ 葛 イヤ 葛 イヤ

萩 イヤ 萩 イヤ 萩 イヤ 萩 イヤ

枇杷乃花 イヤ 桑乃花 イヤ 心桑花 イヤ 冬牡丹 イヤ

十月 十日 法勝乃大業云 北四日 燧用 十月

火桶 イヤ 柴乃切 イヤ 袖風衣 イヤ 袖霜 イヤ

代河雨 イヤ 志中死 イヤ 柳 イヤ 冬木抄 イヤ

青世 イヤ 落葉 イヤ 木枯 イヤ

秋葉乃 イヤ 枯野乃 イヤ 葛 イヤ 葛 イヤ

萩 イヤ 萩 イヤ 萩 イヤ 萩 イヤ

枇杷乃花 イヤ 桑乃花 イヤ 心桑花 イヤ 冬牡丹 イヤ

帰花 カハナ ハナハナ カハナ 寒菊 カキ はなみ カハナ 莖 カハナ
 菜 カハナ 菜 カハナ 大根 ダイコン 苦苣 クニ 麦 カハナ
 納豆 ナド 麦 カハナ 神 カハナ 神 カハナ 神 カハナ
 種 カハナ 種 カハナ 種 カハナ 種 カハナ
 細 カハナ 細 カハナ 細 カハナ 細 カハナ
 釜 カハナ 釜 カハナ 釜 カハナ 釜 カハナ
 水 カハナ 水 カハナ 水 カハナ 水 カハナ
 子 カハナ 子 カハナ 子 カハナ 子 カハナ
 鴨 カハナ 鴨 カハナ 鴨 カハナ 鴨 カハナ

鴨 カハナ 鴨 カハナ 鴨 カハナ 鴨 カハナ
 生海胤 ナマウミコ 結 カハナ 鯨 カハナ 鯨 カハナ
 炭電 カハナ 炭 カハナ 炭 カハナ 炭 カハナ
 今衣 イマキ 今衣 イマキ 今衣 イマキ 今衣 イマキ
 浣雨 カハナ 浣雨 カハナ 浣雨 カハナ 浣雨 カハナ
 雪垣 ユキカキ 雪垣 ユキカキ 雪垣 ユキカキ 雪垣 ユキカキ
 十月 カハナ 十月 カハナ 十月 カハナ 十月 カハナ
 霜月 カハナ 霜月 カハナ 霜月 カハナ 霜月 カハナ
 天正月 カハナ 天正月 カハナ 天正月 カハナ 天正月 カハナ
 因乃 カハナ 因乃 カハナ 因乃 カハナ 因乃 カハナ
 十一月 カハナ 十一月 カハナ 十一月 カハナ 十一月 カハナ

此

八

曆 一日 朔旦冬至 十月朔日冬 芝居新見世

發置 一陽乃赤節 十月廿七日陽月之 宮深を深

襪とくそとる 履と秋家 桐葉

系 上糸日大和住吉大神 此原共智と富 葛木 鴨紀修

家像系 上糸 山科系 上巳 平野系 市 春日

系 同日 松本系 同日 當广系 率川系 梅

官系 上糸 南宗系 同日 中山系 同日 松尾系 同日

大原野系 中子 園韓神系 中 吉原系 申日

日者系 同日 将乃使 五帝 長其武

殿上 将乃使 徳元系 中 日

豊明公即舍 中辰日 加茂院乃系 下 園日

日言院乃系 中申 加茂院乃系 下 園日

三條御神系 下 御 小忌衣 山 御

東

東

東

東

日蔭の糸ヒカケ 神系身カミシラ 神花乃飲カミナリ 巧知女ウチメ

庭燎ニハヒ 探物奇トリモノ 抄ヒラキ 神々カミナリ 大前張オホサキ 乃飲ノリ

井イデ 小糸法コイトウ 早歌ハヤウタ 星ホシ 御火燒ミホヒヤキ

千歳チゼン 早歌ハヤウタ 星ホシ 御火燒ミホヒヤキ

吹草糸フイカサ 八日ヤチヒ 新玉津ニウタマ 佛ブツ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

御中ミナト 三橋ミハシ 西日ニシヒ

多之之慕 教訓草 さらけ落葉 力草
 近 近多将 煖多 宅替多 粽しく
 初作 鈔 石花 松丈魚 若如春湯 ひ
 茶之ひ 菓子酒 強毒雨 霞 雲車よ乃る 提
 凍 雲雷 總貫 雲車よ乃る 提
 十二月 季冬 端月 冷月 大呂 極月 卯月
 乙丑朔日 忌火此御飯 一日六月り

大神祭 四月又あゝ 天智天皇此御國忌 三日
 卯辨乃御占奏 又日 月次乃祭日 祢今食
 正月事 御佛名 十九日
 被褥 柘梨勅盃 御發上 像
 着弦乃政 内所乃祢 承 寂勝
 寺の灌頂 十音 湯糟粥 八粥 大徳寺 完心忌

齊宮代後ツイチ 晦日ツイチ 和布川の津事ツイチ 晦日ツイチ 夜ツイチ 五条天神春ツイチ

追儻ツイチ 晦日ツイチ 爆竹ツイチ 常ツイチ 五条天神春ツイチ

あやうおからツイチ ちあやうツイチ 実ツイチ ひひツイチ

いんツイチ 此ツイチ 厄拂ツイチ 吉田乃大枝ツイチ

大原里雜唯寢ツイチ の張ツイチ 小室常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ

くひ初ツイチ 大室ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ

正月ツイチ 除夜ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ

大あツイチ 除夜ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ

糸ツイチ 毘ツイチ 門松ツイチ いツイチ とツイチ とツイチ とツイチ とツイチ

まツイチ とツイチ 隣ツイチ まツイチ とツイチ 門松ツイチ いツイチ とツイチ とツイチ とツイチ

はツイチ とツイチ 餅ツイチ つツイチ 餅ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ

賣ツイチ 餅ツイチ つツイチ 餅ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ

年ツイチ 終ツイチ 年ツイチ 忌ツイチ 屠ツイチ 此ツイチ 末ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ

義ツイチ 輪ツイチ 回ツイチ 纏ツイチ るツイチ 八月ツイチ 鱧ツイチ 少ツイチ 早ツイチ 梅ツイチ 之ツイチ 毒ツイチ

常ツイチ 終ツイチ 年ツイチ 忌ツイチ 屠ツイチ 此ツイチ 末ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ 常ツイチ

義ツイチ 輪ツイチ 回ツイチ 纏ツイチ るツイチ 八月ツイチ 鱧ツイチ 少ツイチ 早ツイチ 梅ツイチ 之ツイチ 毒ツイチ

義ツイチ 輪ツイチ 回ツイチ 纏ツイチ るツイチ 八月ツイチ 鱧ツイチ 少ツイチ 早ツイチ 梅ツイチ 之ツイチ 毒ツイチ

膳毒 ハヤサキハキ 早咲桂 トウソウ 孟宗竹 冬苗 室竹 チク 乃介

右四節乃綱目うらにやうくもまはれしあはれきと
てうらぐくまはれしとひとまはれしと
まはれし草萬花乃因に及法本も秋風霜
雪乃具名おとあそくまはれしとまはれし
あそく使いしとまはれし半おうら其物れ時命を
うあそくおもはれしと撰乃とまはれしと
書載ゆりて可成るを

⑤ 面八句 ジシキ 律紙尺とぬき母とまはれしと
ぬき母とぬき母とまはれしと

ぬき母とぬき母とまはれしと
ぬき母とぬき母とまはれしと
ぬき母とぬき母とまはれしと
ぬき母とぬき母とまはれしと
ぬき母とぬき母とまはれしと
ぬき母とぬき母とまはれしと
ぬき母とぬき母とまはれしと
ぬき母とぬき母とまはれしと
ぬき母とぬき母とまはれしと
ぬき母とぬき母とまはれしと

乃介

乃介

眼

まどへ入らんかきくあけりてはまのあは
かゝるゝとてふまをまを備へ一珠と云ふと可考
ぬ句はまゆふたを人打寄えて別業あけやま
佐者より句はんと夜形とやうにあつた
ふのまのえらるとん持りやうとあつた
あまのいゝはまのいゝとあてあつてん
眼を越向うかやもま道乃内一はなまて句は
一ぬ又宗匠は法都とあて付人ま第一級は
よたひのまのあゝ韻をも本控葉としてあつた

きめしとめぬど切者持りてあはを初めなり
めくべ唯字留りや一めくべ一勝乃て第三の
てなまゆはまのあゝ

第三けぬく眼乃まはまのあゝとす
まのあゝまのあゝまのあゝとす
又まのあゝまのあゝ
又まのあゝまのあゝ
まのあゝまのあゝ
まのあゝまのあゝ
まのあゝまのあゝ
まのあゝまのあゝ

下第一第二以後は上乃白と變然カクニ一其の中一りも
 月れる又一次の終り概乎乃るの色を其あるを老
 女の白と定むハクニ

なる七のり又子細きて此如りて乃れなるも自然に
 あり一又面の中国字なきことしてこれをいひたる
 二の七くるも女若きより後世乃カクニ西事カクニのいひ
 裏連終カクニかりて九のりより神祇尺を反意をカクニ木カクニ標名
 所多傷何事カクニもなきは乃る久きた仕出カクニの十のり
 きのこ植物カクニ研砂可カクニなきは乃る久きた仕出カクニの十のり
 きのこ植物カクニ研砂可カクニなきは乃る久きた仕出カクニの十のり

たる物とてカクニは乃る久きた仕出カクニの十のり
 其を中カクニの七のりより神祇尺を反意をカクニ木カクニ標名
 其所付カクニの七のりより神祇尺を反意をカクニ木カクニ標名

裏初乃一カクニは乃る久きた仕出カクニの十のり
 舉カクニのり付カクニたる物とてカクニは乃る久きた仕出カクニの十のり
 一症乃良カクニも乃る久きた仕出カクニの十のり
 白カクニ業カクニ乃て乃る久きた仕出カクニの十のり
 前カクニ三折乃むカクニ付カクニたる物とてカクニは乃る久きた仕出カクニの十のり
 なる物と知カクニ別カクニ一カクニ後乃る久きた仕出カクニの十のり

此種乃心を事し 至因のちがひをさす遠く
あつて後よりふくむ作もは宜しう下へ後白
め佐者ゆひひ亭主乃役ありとて又初乃一吸よ
執事毛代ふあくと奉る執事乃役之又あはるよあ
文字を嫌ふ

●百韻月詠定座

面八白 七夕月詠定座
二面十四白 十二夕月詠
三面十四白 二面十白

裏十四白 十夕月詠定座
二裏十四白 二面十白
三裏十四白 二面十白

●百韻月詠

百韻月詠乃白の妻執乃もあはるれど切者よあづりて神放ま
ぞ一あももも又母のそらう一支に下随もあ

●四十四

とく一と久百韻乃法を初初とあ幾代折とと二折ありと
三三乃折をぬきとる物とあ幾代折とと百韻乃法と目あり也

●歌仙代巻

面六白 五夕月詠定座
名残面十四白 十夕月詠定座

裏十二白 公夕月詠の定座
名残裏十四白 五夕月詠定座

① 畫院席可有見候

新室の會より燃ゆ心あるの火籠よりと交想のまゝ寝
乃字た遷り候追善の心ある母とてなぬらふまみらま
と小道はとらやうの中船中よりかみきりて良風
あどきとのまうくある候及び其外五折不具は候
などおのゝまうく連れ中よりかみきり人もやめ
まことと量すべし幾れとらう其外故人の遺戒と異
てたのちとて

一 出症生糸

一 忌症おとて

一 衣裳法を多際不控

一 雑句林示

一 高吟或雑談

一 障座人ゆやく

一 聖人或兒回者吟

一 自家白吹びる同講

一 他句雜況他句返身自得他句示付合執向云候

一 自家句付内症

一 名車より物合

一 末座より教と好回書片花乃と伝

一 障眼めくひ等

右之外子の此座法令方よりとてあまこと恐くあり候
む初学乃人先事にあまひて守りあるをさし相候

一 此美人の二面も又幾夜も是と寝下し但付宜くも入
一 筆とて披看せし事有りしに其の持あつら披
一 看し下し今も其の如くとも事とていふ
一 美人乃御白の披看せし事ありてこれをして披
一 看せし人一人事人仕白の事ありて座より人天の事御白と
一 事ありて納りし事ありてこれをして披看しし事あり
一 事相代念の事ありてこれをして披看せし事あり
一 一 此美人の二面も又幾夜も是と寝下し但付宜くも入
一 筆とて披看せし事有りしに其の持あつら披
一 看し下し今も其の如くとも事とていふ
一 美人乃御白の披看せし事ありてこれをして披
一 看せし人一人事人仕白の事ありて座より人天の事御白と
一 事ありて納りし事ありてこれをして披看しし事あり
一 事相代念の事ありてこれをして披看せし事あり

一 此美人の二面も又幾夜も是と寝下し但付宜くも入
一 筆とて披看せし事有りしに其の持あつら披
一 看し下し今も其の如くとも事とていふ
一 美人乃御白の披看せし事ありてこれをして披
一 看せし人一人事人仕白の事ありて座より人天の事御白と
一 事ありて納りし事ありてこれをして披看しし事あり
一 事相代念の事ありてこれをして披看せし事あり
一 一 此美人の二面も又幾夜も是と寝下し但付宜くも入
一 筆とて披看せし事有りしに其の持あつら披
一 看し下し今も其の如くとも事とていふ
一 美人乃御白の披看せし事ありてこれをして披
一 看せし人一人事人仕白の事ありて座より人天の事御白と
一 事ありて納りし事ありてこれをして披看しし事あり
一 事相代念の事ありてこれをして披看せし事あり

